

国語 第5学年 「文化を受けつぐ」 ことについて考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：文化を受け継ぐことへの書き手の考えを、文章と資料の関係から読む。伝統をそのまま残すことと変えながら続けることを印象だけで論じず、紹介された事例がどの考えを説明しているかを捉える。C(1)ウ・C(1)カの学習として、文化を受け継ぐことへの意見。文章と資料で確かめたこと、自分の考え、根拠となる事例、交流後の追記を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：文化を受け継ぐことへの意見を残す。文章と資料で確かめたこと、自分の考え、根拠となる事例、交流後の追記を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)カに関わる学習の中身を確認める。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：資料を飾りとして見る。文化は昔のままがよいという決めつけになる。これについて、本文の考えと対応する資料の箇所を線で結ぶ。引用・要約・自分の意見を分け、出典を記す。家庭の文化的背景や伝統への親しみの差を評価しない。〔知識及び技能〕(2)イとC(1)ウ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「文章の考えを確かめるために、資料のどの部分を読むとよいですか。その事例から自分は受け継ぐことをどう考えますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：文化を受け継ぐことへの意見は紙に記録できる。文章と資料で確かめたこと、自分の考え、根拠となる事例、交流後の追記を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：伝統文化の知識が多い児童ほど高評価になるのか。

返し：C(1)ウ・カでは文章と資料の関係から読み、考えを共有する。事前知識の量ではなく、授業で確かめた根拠を使った説明を見る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「文章の考えを確かめるために、資料のどの部分を読むとよいですか。その事例から自分は受け継ぐことをどう考えますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

